

登山月報

第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会 … 1
 トラッドクライミングミーティング2014(その1) … 3
 平成26年度東北総合体育大会山岳競技ブロック会議・
 日山協競技部ブロック別研修会を盛岡で開催 … 5
 第74回 Mountain World …………… 7
 北から南から ブロック便り …………… 8
 2014 UAAA総会(広島) 報告 …………… 10
 JMA、寄贈図書、編集後記 …………… 12

第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会報告

第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会(特別協賛:三井住友海上火災保険)が、12月23日(祝)、24日(水)の2日間に亘り埼玉県加須市民体育館にて開催された。加須市合併5周年記念と冠された今大会は、全国41都道府県から男子36県69校104名、女子36県60校84名、合計188名の選手が出場した。昨年より県数で3、選手数で20名増加し、団体参加校も男子31校、女子21校と盛況であった。

開会式では、神崎忠男・日山協会長より「2020年東京オリンピックで開催競技が増えることになり、クライミングにも可能性が出てきた。ジュニア世代の活躍によりオリンピックでメダルを獲得できる競技であることを国に伝えてほしい。」と力強い挨拶があった。

また、大橋良一加須市長からは、「鯉のぼり、うどん、クライミングのまち『加須』へようこそ。寒い季節の大会だが高校生の熱い戦いを期待したい。」とご挨拶をいただいた。

初日の予選はフラッシングで、男女それぞれ2つのルートに登り、その合計で競った。グレードは男子が13aと13a/b、女子が12bと12c。2ルートとも完登した選手は男子5名、女子2名で昨年より難しくなった。男子27名、女子26名が翌日の準決勝に進んだ。

大会2日目午前の準決勝からオンサイト方式とな



優勝杯返還

り、グレードは男子が13b、女子は12dに設定。完登したのは男女とも1名ずつで、男女それぞれ8名が決勝に進出した。

午後からは女子、男子の順で決勝が行われた。前半の女子決勝はグレード13aの壁に挑んだ。完登者はなく多くの選手が3分台でフォールする中、4番目に登った坂井絢音選手(山村学園・埼玉)が僅差を制して優勝した。2位には、昨年3位の義村萌選手(津東・三重)が入った。

後半の男子決勝ではグレード13b/cの壁に挑戦した。いずれの選手も実力者揃いで、ギャラリーの熱い声援を受けながら手強い壁に挑んだが完登者は出な



競技大会々場

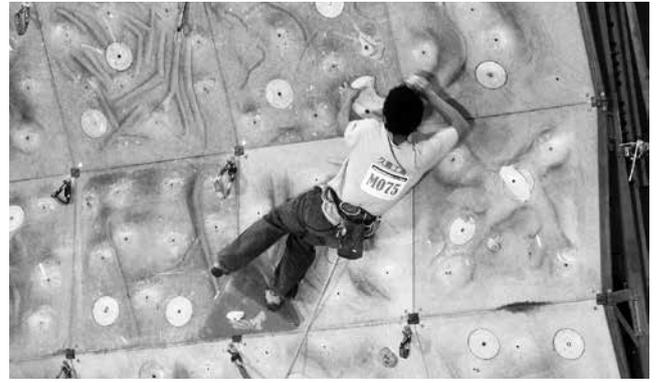


坂井絢音選手

かった。その中で、準決勝で一人だけ完登した波田悠貴選手(久喜工業・埼玉)が、実力を遺憾なく発揮して優勝した。2位には、原田海選手(羽衣学園・大阪)が入った。

閉会式では、学校団体戦の優勝校には優勝カップ、6位までの入賞校には賞状と協賛社のマムートスポーツグループジャパンより副賞が贈られた。また、個人男女8位までの選手には賞状と協賛社のマムートとゴールドウインより副賞、さらに3位までの選手にはメダルが贈られた。また、加須市合併5周年を記念して、加須市より出場選手全員に「ミニこいのぼり」を、さらに手書きこいのぼり老舗『橋本弥喜智(やきち)商店』謹製の「手書きこいのぼり額」が、各カテゴリーのそれぞれ3位までに贈呈された。

最後に今回で5回目を迎えた本大会のために準備段



波田悠貴選手

階からご尽力いただいた、地元加須市ならびに埼玉県山岳連盟の方々に感謝の意を表するとともに、加須市のクライミングウォールで己の技を競いあった若きクライマー達が今後のスポーツクライミングの発展に貢献してくれることを切望する。(記 青木秀則)

大会成績

個人男子	
1位	波田 悠貴(久喜工業・埼玉)
2位	原田 海(羽衣学園・大阪)
3位	島谷 尚季(幕張総合・千葉)
4位	大高 伽弥(盈進学園東野・埼玉)
5位	久貝 悠太(京都学園・京都)
6位	渡邊 海人(伊奈学園総合・埼玉)
7位	豊田 将史(野田学園・山口)
8位	野村真一郎(東洋大牛久・茨城)
団体男子	
1位	久喜工業(埼玉)
2位	防府(山口)
3位	浜松日体(静岡)
4位	遠軽(北海道)
5位	大村(長崎)
6位	千城台(千葉)

個人女子	
1位	坂井 絢音(山村学園・埼玉)
2位	義村 萌(津東・三重)
3位	野中 生萌(日出・東京)
4位	錦織 美里(広島井口・広島)
5位	中村祐香梨(浜松日体・静岡)
6位	大場 美和(光ヶ丘女子・愛知)
7位	山下 真由(安芸・広島)
8位	木下 茜(佐世保東翔・長崎)
団体女子	
1位	浜松日体(静岡)
2位	佐世保東翔(長崎)
3位	多久(佐賀)
4位	大村(長崎)
5位	南光学園東北(宮城)
6位	洛東(京都)

〈御 礼〉

この度の第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の開催にあたりましては、地元加須市はじめ特別協賛社、協賛各社、関係諸機関には大変お世話になりました。また、観戦にご来場いただいた多くの方々、ありがとうございました。深甚より御礼申し上げます。

ネパールへ行かれるなら
風の旅行社名古屋にお任せ下さい

ご友人同士、ご夫婦等、あなただけのオリジナルプランをご提案いたします。勿論、現地では日本語ガイドががっちりサポート！是非、お気軽にご相談下さい。

株式会社 風の旅行社名古屋

愛知県知事登録旅行業第3-1367号 日本旅行業協会正会員
総合旅行業取扱管理者 古谷 朋之
〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-12 サカエ東栄ビル6F

TEL 0120-987-321 FAX 052-228-6232 e-mail nagoya@kaze-travel.co.jp

数々の遠征隊が訪れた世界最高峰のベースキャンプへ

**エベレスト・カラパタル登頂と
エベレスト・ベースキャンプ 22日間**

発着地 東京・大阪・名古屋・福岡 旅行代金
出発日 3/19(木)・4/4(土)・4/23(木) ¥550,000

※燃油サーチャージ(2014年12月20日現在:目安約37,000円)が別途必要です。
旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/JTF保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海産ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

イタリア C A A I (Club Alpino Accademico Italiano) の主催する「Trad Climbing Meeting 2014」に、日本山岳協会からの派遣という形で参加したので、その活動内容、登攀ルート、雑感などについて報告する。

「Trad Climbing Meeting」は2010年に始まり今年で3回目を迎える C A A I 主催のクライマー交流会である。世界各国から男女各1名のクライマーを招集しており、日本からは初参加となる。

1. 期 日

2014年9月14日(日)～20日(日)の8日間

2. 場 所

イタリア北西部ピエモンテ州のチェレゾーレ・レアーレ(Ceresole Reale)の街のOrcoValleyの岩場で開催された。チェレゾーレ・レアーレは、トリノの北、ミラノの西に位置する。

OrcoValleyはグランパラディーゾ国立公園内にあり、谷の両側沿いに大小39もの岩場がある。それぞれが駐車場から徒歩5～20分程度のアプローチに恵まれた場所にある。西ヨーロッパ・アルプスでは花崗岩のクラック・クライミングで有名なところであり、Sergent、Caporal等では3～6ピッチ、長いもので9ピッチ程度のクラックやスラブのマルチピッチルートがある。また、シングルピッチのスポーツクライミングのルートもあれば、ボルダリングできる岩場も多数ある。

チェレゾーレ・レアーレは、クロスカントリースキーのコースがあり、別荘地のようなところである。ホテルやレストラン、置物などを扱うお土産物屋はあるが、山道具店など買い物には不便なところだ。

3. 参加者

参加者は、21ヶ国から男女合わせてのべ48名が世界各国(ヨーロッパを中心)から集まった。また、各国2名、出来れば男女を望むという条件だったが、オランダやイスラエルは5名、チェコは4名のように多数参加した国もあった。また、正確にはわからないが女性は7名、参加者の年齢は、下は20歳、上は60歳くらいまでの人がいた。ヨーロッパからの参加が多く、現在はドイツで働いているイラン人、ノルウエーで働くブラジル人など、近隣に在住する人を選んでいたのかもしれない。ほか遠方ではブラジルやニュージーランドなどで、アメリカからの参加はなかった。自分が、アジアから唯一の参加であった。

募集要項に少なくとも5.10、6b(5.10b～10cくらい)を登れることという条件があった。イギリスから来たAndi Turner(アンディ)のようにボリエールからのサポートを受けているようなクライマーもいたが、一方でブラジルやイスラエルにはクラックがないと言っていたし、その技量は千差万別のようなようだった。なかには、もっぱらエイドを行うクライマーも参加していた。これらの参加者(ゲスト)にイタリア人ホストが総勢19名おり、ゲスト全員が毎日参加するわけではないので、各日4～5人に一人ずつ案内役としてホストがついた。

4. 活動概略

9/13 11:40、成田発アリタリア航空の直行便でミラノのマルペンサ国際空港に同日17:30着。値段は少々高くなったが、直行便を選んだ。体が楽なのと現地まで迎えに来てもらうのにトランジット等で遅れた場合、電話で説明するのが大変だと思ったからだ。あらかじめ駅に集合と聞いていたが、看板に従って進み、



観光地のニボレット峠



宿舎前の参加メンバーとホスト

すぐに場所はわかった。主催者のM a u r o (マウロ)が迎えに来ており、数時間前に到着していたイギリスのアンディとウイルと4人でマウロの車で宿舎に向かう。夜間でスピードを出したこともあり、2時間余りで到着した。

以下はミーティング中にクライミングを行った岩場の名称等

- 9 / 14 Col dell Nivolettへヒッチハイクで行き、周辺ハイキング、夕方プレゼンテーション
- 9 / 15 Torr de Aimonin (やさしいマルチの岩場)
- 9 / 16 Sergeant (メインの岩場の一つで、マルチも多いが主にショートルートに登る)
- 9 / 17 雨でミーティングは中止(レスト)
- 9 / 18 雨でミーティングは中止(Boscoという岩場でスポーツクライミング)
- 9 / 19 雨でミーティングは中止(3000mの峠を越えるハイキング)
- 9 / 20 Dado (比較的やさしく、好ルートのそろった1ピッチの岩場)
- 9 / 21 Sergeant (ミーティングは終了したが、半日登ってトリノへ移動、宿泊)
- 9 / 22 トリノからバスでミラノへ移動、マルペンサ空港14:00発
- 9 / 23 成田空港9:50着で帰国

○受付について

9月14日誓約書にサインし、100ユーロを支払うと、Quechuaのベスト、オレンジ色の綿Tシャツ、グリベルのワイヤーカラビナ1枚、ボールペン、夕食のチケット(毎晩レストランでホストが回収)等を受け取る。事前に到着している人もおり、今日から登りに行く人もいたが、マウロの勧めもありレストを兼ねてヒッチハイクでニボレット峠へ向かう。幸いすぐに車に乗せてもらい、ニボレット峠まで到着。周辺を1時間ほどハイキングした。道は行き止まりだがバイクやサイクリングの人に有名などころのようで、多くの二輪車を見

た。ジグザグの道を登りきると、湖が二つ並んで見え、とても美しい。帰りはなかなかヒッチハイクに成功せず、30分以上歩いた。

夕方からRefugio Millaにおいて、ちょうど開催されていた小学生のクライミングスクール生に対し、トラッドクライミングミーティングの紹介スライドショーが実施された。その後、宿舎前のレストランに車で移動し、夕食と歓迎会。改めて個人が自己紹介をするようなことはなかった。

○トポについて

「Valle dell' Orco」というカラー版の詳しいトポがある。日本では手に入らず、現地のツーリストオフィスで29.5ユーロで入手した。町の中心部の本屋でも売っていた。実は出発する1週間前まで行先をArco(アルコ)だと勘違いし、そのトポを手に入れていた。

○宿泊施設(ミーティングハウス)について

irenという近くのダムで発電をしている会社所有の保養所のようなところ。4階建て、自分はイスラエルから参加のNoan(ノアン)と2階の部屋で、Wベットひとつ、シャワー(狭い)、トイレ、洗面所、流し台、電気コンロ、小さな冷蔵庫が付いている。部屋の大きさは、各種あるようだ。コンセント変換プラグを持参したので、パソコンやカメラの充電は可能。電話や無線LANはない。徒歩5分のツーリストオフィスやその近くのレストランにFree Wifiがあり、そこからネット接続が可能。

○気候について

標高1500mの高地にあり、朝晩はそれなりに冷える。薄手のダウンジャケットを着る人もいたが、シャツとフリースジャケットくらいでいたい過ごせる。日中日が当たる場所でクライミングするのは、Tシャツ1枚で十分くらい。降雨で緩和されたが、空気は乾燥している。日没は遅く19時前まで明るく、夜明けは6時半くらいだった。

○装備について

各自シングルロープ1本、ハーフロープ1本、カム1セット、ナッツ1セット、スリング、ジャミンググローブかテーピングを用意するように案内には記載されていた。長いルートもあるので、60mロープが有効。ロープはグループで共有するので、必ずしも2本なくても可。カムはキャメロットC4の0.3から2番までを2セット、3から6までを1セット持参した。3を借りることはあり、6を使うことはなかった。シュラフも必要装備に入っていたが、使うことはなかった。その他、タオルなどの日用生活用具。(つづく)



Sergentの岩場全景

平成26年度

東北総合体育大会山岳競技ブロック会議・日山協競技部ブロック別研修会を盛岡で開催

平成26年度東北総合体育大会山岳競技ブロック会議・(公社)日本山岳協会競技部ブロック別研修会が、平成26年11月29日(土)と30日(日)岩手県山岳協会が幹事県となって、盛岡市内のホテルで開催されました。会議には、東北六県各岳連(協会)会長等16名が出席、ブロック別研修会には、競技運営員研修講師として(公社)日本山岳協会競技部競技運営委員長西原斗司男氏、C級審判員研修講師として同競技運営常任委員佐原晴人氏が遠路来て頂き、東北六県から運営員研修には、19名、C級審判員研修には、22が受講し、熱心に研修しました。東北総体山岳競技ブロック会議の様子を報告します。

会議は、岩手県山岳協会高橋会長が進行役を務め進行。

(1) 日山協理事会報告

日山協は、今年は赤字決算とならないよう適切な予算執行に留意するよう指摘があった。

(2) 第41回東北総合体育大会山岳競技開催結果報告

- ①個人表彰の規定がないのに表彰し、表彰することになっている種別総合表彰がなされなかったことから平成27年度からは、競技開催要項に基づき表彰することとする。
- ②ボルダリング競技の終了前に、一部仮設競技施設の撤収が始まったが、競技終了後に行うよう徹底する。
- ③競技役員の服装、履物が一部不適切である。役員は選手の手本になるべき。日山協競技規則への明記の必要性の検討。
- ④競技エリアへの関係者以外の立入り禁止の徹底を図る。
- ⑤主任審判員の役割の明確化を図ること。
- ⑥セッターの運営面への関与がないよう事前に調整する。
- ⑦今年の東北総体の成年女子の青森、秋田の順位に間違いがあった。国体成年女子リードで愛媛の集計ミスがあり岩手と愛媛の順位に影響がでた。成績は、間違いでは済まないものでチェックの徹底が必要。

(3) 平成27年度開催の第42回東北総合体育大会山岳競技について

今回決定の開催要項に基づき岩手県で開催する。運営については、原則的に(公社)日本山岳協会国体山岳競技規則等に準じて開催する。従って、審判員と競技



運営員の業務分担を(公社)日本山岳協会国体山岳競技規則等に準じて実施する。審判は、ジャッジに専念、アイソレーションからコールゾーン等の運営は、運営員とする。なお、平成28年度以降も、原則として同様の措置とするが、開催県の審判員、競技運営員の有資格者等体制についても配慮する。

(4) 御嶽山の噴火と登山者への啓蒙について

東北ブロック各県の動きについての情報交換を行った。①.登山届の励行。②ヘルメット持参の山行、山小屋へのヘルメット常備。③火山性微動情報があるときは、登山者に登山の自粛を呼びかける。④シェルター化した山小屋・避難小屋の設置。等については、その必要性の共通認識に立ち、各県で其々状況を見定めながら対応して行くこととする。なお、関連して各県から下記の意見が出された。

- ・登山届については、実効性を確保できるものの検討。入山届の提出の啓蒙(山菜取り、ハイキングでの入山者にも対応したもの)。日山協、所轄警察本部ホームページを利用した届出の呼びかけ。関係する遭対委員会を通じた啓蒙、所属山岳会、家族、友人へ連絡の徹底の呼びかけ。

(5) 平成27年度開催の第54回全日本登山体育大会宮城大会について

近県開催でもあり、東北ブロックにおいて大会成功に向けて、各県5人以上の参加を呼びかけていく。サポート要請についてもできる限り協力していくことを確認。

(6) 今年度で任期満了となる日山協理事の平成27・28年度東北ブロック代表理事の推薦について

齊藤喜代志氏(秋田県山岳連盟会長・日山協正会員)の推薦を満場一致で決定。

(7) 日山協組織の三部制移行に伴う各岳連(協会)の組織改編に伴う、各県の対応や競技登山と岳連(協会)運営について

- ・県内の他団体での不祥事の発生で、事故への法的対応のため法人化への移行指導が県内上部団体からある。(青森)
- ・日山協の三部制の定着を待って検討したい。公益事業により会員のみの共益事業から一般県民対象の公益事業への取組に伴う事故対応等事業の拡大やスポーツライミング、一般登山者対応等活動方針の再検討の必要がある。(岩手)
- ・部制等すでに日山協に対応した改正をすでに行った。(山形)
- ・会員の高齢化、若年層の組織離れ等所属団体、支部の強化が喫緊の課題。(福島)

◎競技登山と岳連(協会)運営について

- ・競技登山は、割切って取組む必要がある。トレランが組織化志向にある(青森)。
- ・選手登録制度導入により、組織未加入選手の登録、県大会出場の取り扱いで苦慮(岩手)。
- ・岳連個人会員は、スポーツライミングの愛好者が中心(秋田)。
- ・岳連加盟と選手登録の在り方の検討(宮城)。
- ・選手のWeb登録で混乱をきたした。大会運営は、福島県フリークライミング協会に依頼(福島)。

(8) (公社) 日本山岳協会の参与制度について

制度の歴史的背景と今後の参与制度の展望と位置づけの検討が必要。

(9) その他

①日山協登山月報について

- ・東北ブロック会議の内容についても、登山月報に掲載してほしい。
- ・結果の報告、国際会議、国際大会報告が中心、寄贈図書欄は必要があるのか。



- ・編集者は、原稿が集まらなくて苦勞している。内容の充実に協力していく必要がある。
- ②中老年安全登山指導者講習会(青森県岳連) 定員50名に対して48名参加で盛会裏に終了。
- ③広島山岳平和祭(11月22日～23日広島市で開催) 300人を超える参加者で大成功に終了した。東北ブロック参加(岩手1、山形8、福島1)
- ④平成27年度の東北ブロック全国行事の確認
 - ・第54回全日本登山体育大会宮城大会
10月9日(金)～11日(日) 宮城県栗駒山
 - ・全国自然保護委員会総会 福島県に開催打診あり。
決定の場合10月から11月の間で開催予定。
 - ⑤平成27年度の東北ブロック行事確認
 - ・東北地区六県協議会
5月16日(土)～17日(日)(山形岳連)
 - ・東北総体7月24日(金)～26日(日)(岩手県山協)
 - ・東北ブロック会議
11月28日(土)～29日(日)(青森岳連)
(記 岩手県山岳協会長 高橋時夫)



みんなあつまれ! なすかし雪遊び隊2015

小学生の雪遊びイベントを1泊2日で開催します。

- 期 日 平成27年3月27日(金)～28(土)
場 所 国立那須甲子青少年自然の家
内 容 かまくら作り、スノーシュー体験、
そり遊び、動物の足跡さがし、雪上ゲーム、
お楽しみ会など
募 集 小学1年生～4年生 20名(先着順)
参加費 1人4,000円(保険料、宿泊食事1泊4食)

《申込み》 日山協事務局
FAX: 03-3481-2395

第74回 Mountain World

ネパールのアルパインクライミング

池田常道

ネパール・ヒマラヤでは、高峰登山が一段落する10月中旬から11月にかけて6000m峰のアルパインクライミングが盛んになる。この時季は好天が持続し、適度な寒気で壁の氷結状態もよくなるからだ。その傾向は今季も続き、ロールワーリン・ヒマールを中心に以下の初登攀が記録された。

＊

アメリカのアラン・ルソーとティモ・ヴィラヌーヴァは7週間の滞在で、合計2700mのハードピッチを登った。最初に取り付いたのはパチェルモ(6275m)の西壁。標高差1200mの壁は、ルソーによると「締まった氷雪壁とウォーターアイスのガリー、固い花崗岩壁」から成るが、上部では傾斜60度の雪壁で、ときおり首までもぐる深雪のラッセルを強いられたという。10月31日、12時間を要して、暗くなってから登りきった二人は、強風のなか、通常ルートの北稜を下って真夜中にBCまで帰った。

その後彼らは、主目標のテンギ・ラギ・タウ(6938m)西壁に向かった。高さ1マイルに及ぶ未踏の壁である。チリ雪崩の落ちるなか、薄く氷の張り付いた壁を6200mまで登ってビバーク。翌日、日没まで数時間を残してビバークを予定していた場所に着いたが、残念ながら、そこは落石・落水にまったく無防備な場所だった。明らかな危険にさらされて一夜を過ごすわけにもいかず、結局25回の懸垂下降を繰り返し、8時間かけて基部に降り立った。

この二人は2012年11月に初めてロールワーリンを訪れ、600mに及ぶM4の登攀で5766m峰に登頂、ラングモチェ・リ(約6600m)北西稜も登っている。その後、テンギ・ラギ・タウ北稜を試みたが、強風と寒気のため中止していた。

＊

アメリカのサム・ヘネシーとスロヴェニアのドメン・カステリッチはチュキマゴ(6258m)西壁を初登攀した。3日間壁を観察した二人は、トレッキング・ピークのヤルン・リ(5647m)に登って高所順応、10月中旬以降数日間の好天が訪れるという予報を得て、西壁に取り付いた。ルートは標高差900mある壁の左寄りに採

る。出だしでは深い雪に悩まされたが、中間部は良好な氷とミックス壁にめぐまれた。上部では新雪のため登攀スピードが鈍ったものの、日暮れ前に北稜に抜け出してテントを張ることができた。ここから頂上までは鋭いリッジが続き、短い区間にたっぷり3時間を要した。テントに戻って登路を下った二人は、その日のうちにキャンプまで帰った。グレードはM4、60度。

チュキマゴは2002年に解禁リストに載ったが、観光省の担当者は二人に、これは未踏峰であると説明した。従来、1952年のスコットランド隊(トム・マッキノン隊長)によって登られたとされてきたが、それはチュキマゴではなく5794m峰だったらしい。70年代に何回か試みられ、西ドイツ隊が北稜から頂上まで200mに迫った記録がある。ただし、この山の位置を考えると、他にも隠れた記録があっても不思議ではない。なお、マッキノン隊は他にラムドウン(5925m)とヤルン・リに登ったが、後者は北峰に立っただけだったようだ。

＊

スペインのオリオル・バロとパウラ・アレグレは、チュキマゴの西にある前衛峰(チュキマ・チック、約5950m)に登ってルートをインフレティ(700m、TDー)と命名した。二人は10月31日にチェキゴ(6257m)南壁の左手から標高差1200mに及ぶラインも試みたが、数百m登ったところで断念した。

同じスペインのマニュ・コルドバ、ジョルディ・コロミナス、ジョナタン・ララニャガのトリオは、11月にチュキマ・チックに登って高所順応してからチェキゴに向かい、バロとアレグレの試みたものよりダイレクトなラインを初登攀してシヴァ(1200m、AI5、M6)と名付けた。

ルートの前半部は巨大なセラックの下をたどり、コルドバによれば、プロテクションの取りにくいM5が第一の核心、第二、第三のそれは困難なアルパインアイスの登攀だったという。標高6000mを超えるとM6のミックスが続き、不安定な新雪が降り積もった最後300mの稜線となる。尾根筋を外れないよう、雪の中をものがきながら進み、頂上に達した。取付いてから22時間で標高差1200mを登りきった

＊

《速報》 前号でお知らせしたデニス・ウルブコの冬季K2北東稜挑戦は昨年末にご破算になった。新疆ウイグル登山協会が許可を出し渋ったためだという。

第2回近畿地区岳連合同登山技術研修会

11月9日(日)、神戸登山研修所に於いて近畿地区山岳連盟合同登山技術研修会が開催されました。一昨年、近畿地区山岳連盟合同会議にて各委員会(指導、遭対等)で行っている講習会に於いて技術、用語、講習手順等に違いがあるのでそれを統一しようという主旨で研修会が実施され、今回が2回目となる。近畿地区各岳連をはじめ技術や知識の共有を図る目的から勤労者山岳連盟にも呼びかけ、今年は大阪岳連が主管で、滋賀岳連5名、京都岳連2名、兵庫岳連6名、兵庫労山3名、大阪労山4名、大阪岳連14名、日山協から西内登山部長の計35名が参加。

9時30分より開始。まず主管を代表して大阪岳連の中村会長が挨拶。続いて日山協の西内登山部長から日山協の公益法人化に伴う今後の組織編制、登山部の目的、一般登山者向けの登山者教育、UIAA STRANDARDの認定取得、登山技術の研究・検証・普及、山岳環境の保全などの説明とこれらの現在の進捗状況が報告された。当初、参加者にどれだけ理解してもらえるか心配していたが、参加者からは「日山協の現状が良く分かった。」「日山協の本当の意味での改革に期待する。」「西内登山部長の熱意に感動した。」「頑張ってください。」といった意見が寄せられ我々「地方」の者にとっては遠いところでの動きで有ったものが身近に感じられ、また日山協に対しても「地方からも注目している」事が発信できたのではと思います。

午後からは実技を本来、屋外の人工壁で行う予定であったが雨の為室内で行う事になった。ここからは大阪府山岳連盟技術委員会岩田委員長が進行役を務めた。

・クローズヒッチでの固定分散

固定分散を作る方法としては、スリングをエイトノット/オーバーハンドノットで結ぶ。別のスリングで締め付ける。クローズヒッチで結ぶ。などの方法が用いられていますが、今回はクローズヒッチで結ぶ方法を検証してみた。

・セルフブレーキ機能付きビレーディバイスの問題点

雪稜登攀や沢登りでは、8.9mm以下のロープをシングルで使用していることが多いが使用範囲内であっても、ロープ径が小さいと食い込み、反転が起りや

すく反転した場合ロックが解除してしまう事を実際に検証してみた。



・オートスロック式ムンターヒッチのセッティングと解除

Climbing誌に掲載された「オート・ブロッキング・ムンター」と(一社)日本アルパインガイド協会のガイドマニュアルに記載されている「デミ・キャブスタン・オートブロック」の2通りの方法がありそれらのセッティングと解除方法を検証。

オート・ブロッキング・ムンター
(ロードストランドにカラビナをセット)デミ・キャブスタン・オートブロック
(ロードストランド/プレーキストランド両方にカラビナをセット)

・Wロープでのゼロピンの通し方(1本か2本か?)

ゼロピンには1本のロープを通すケースが多いと思われるが、思わぬ落とし穴があるので注意したい。

トップが1ピンに1本のロープをセットしようと、ゼロピンに通したロープを手繰り寄せた時に墜落した場合、ゼロピンシステムが機能しなくなることをデモにて確認。

以上に付いて最初にデモを行って紹介し、その後6班に分かれてそれぞれ検証が実施された。詳細に付いてはここでは触れないが詳しくは大阪府山岳連盟HPにてご覧ください。

15時30分から質疑応答とまとめに入り第3回は京都岳連が主管で実施する事が確認された。今後も近畿地区ではこの研修会を継続して実施し、指導、遭対等における講習内容の統一を図ると同時に勤労者山岳連盟等とも新しい技術や知識の共有を図って行きたいと思います。

最後に日山協の西内登山部長には遠路わざわざお越し頂き、また兵庫県山岳連盟の皆様には研修所借用に對し多大なるご便宜を図って頂き改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(大阪府山岳連盟遭難対策委員長 石田英行)

平成26年度近畿地区岳連総合会議に参加して

副会長 八木原 剛明

年末は様々な行事が重なり、役員は手分けをしておの出席・参加の調整が必要となる。今年は12月6日の土曜日に日本山岳会の年次晩餐会、日本ネパール協会創立50周年記念祝賀会、本協会の近畿地区岳連総合会議と重なる。

神崎会長が日本山岳会へ、尾形専務理事が日本ネパール協会へ。近畿地区へは昨年は佐藤旺副会長が出席しているとなると今回は私の順番。覚悟を決めての出席である。5日夜は日本勤労者山岳連盟の望年会に参加する。

京都駅で城隆嗣日山協顧問に迎えて頂き、滋賀県大津市の「げんき村宿泊棟(旧比良山岳センター)」へ。新幹線でも名古屋・京都間では吹き降りであったが、琵琶湖を見下ろす会場も雪であった。

近畿地区山岳連盟会長の日山協國松嘉仲副会長は体調不良で急遽欠席となる。

近畿地区岳連からの私への要望は「日本山岳協会の現状と公益法人への移行や将来に向けての展望等」を話し、とのこと。

近畿地区岳連の活動は非常に活発である。会長、副会長、理事長などの岳連役員と各専門委員長が集まる総合会議は年に1度、役員会は年数回行われ様々な問題を処理しているが、今回は6日、7日の2日間での目的は以下。

「近年の登山界を取り巻く急激な環境変化の中、早急に改善・調整すべき点が多少生じております。この現状を踏まえ、理事会だけの運営でなく、各専門分野の

責任者にお集まり頂き、広く岳連相互の情報や意見交換を行い、時代の変遷に的確に対応し未来に向かって岳連のあるべき姿を検討する事を目的にして」総合会議を開催するという。

今回はいよいよ来年に迫った和歌山国体へのブロックとしての対応が喫緊の課題である。和歌山岳連は高体連を入れて10団体という組織である。

6日午後1時開始。全体会議で各岳連の活動状況を報告し、提出議題の説明を行う。

今年は「山の日」が制定され、2016(平成28)年からの実施はあったが、御岳での火山噴火による大量遭難もあり、それも後押ししてか、遭難防止のために登山届の条例化など風当たりも強いなどの話題も。

日山協への要望はいろいろあるが、「最近の登山月報の第1面はいつもスポーツライティングである。違う話題もトップで扱って欲しい」と言う物もあった。

その後理事会、専門委員会毎に分かれるが、私は理事会に参加する。どこのブロックも同様な問題を抱えているが、ブロックの意見は反映する必要がある。後日ブロックとしての詳細報告、問題提起をして欲しい。

日山協は同じ悩みや課題を抱える47都道府県と高体連登山専門部の集合体です。それら全組織の先頭に立って課題解決に立ち向かわなくてはならないが、日本中の現場で苦勞している会員の皆さんが1番良く知っているはずである。建設的なアイデアや意見が欲しい。特効薬、即効薬が見つからないために皆の苦勞が続いている。

日山協の山岳保険の値段についても少し高いのでは無いか? という意見もあったがこれには「保証内容を他の山岳保険とよく比較すれば、我々日山協の保険が1番良いことは理解を得られるはず。自信を持って会員(外にも)に勧めて欲しい」と答える。

共済会員、保険加入者が6万人、8万人、10万人となれば保険料も下がり、収入も増え、活動の幅も広がり、岳連、協会の活性化も促せる。

会員増を願ひ、高齢者組織からの脱却つま



り若い登山者の勧誘、取り込みなどは社会の変化を逃げ口上にせずに積極的に取り組まなくてはならない、等は共通認識であるがうまい手立てが見つからないのが現実である。自然保護も遭難対策も行政との連携が

有効である等々の実践報告があった。

近畿ブロックの益々の活発な活動に期待したい。お世話をお掛けしました。有り難うございました。

2014 UAAA総会 (広島) 報告

出席者 神崎会長、尾形専務理事、笹生国際委員、青山遭対委員(発表時)

傍聴席 坂口・国澤・田中各顧問、八木原副会長、佐藤副会長、青木常務理事、京オ広島岳連会長、山田広島岳連理事長、中村大阪府岳連会長、佐伯国際委員

スタッフ 広島県山岳連盟の多くの皆さん

日程 2014年11月25日

場所 広島アステールプラザ4F大会議室

主管 (公社)日本山岳協会

本年はUAAA創立20周年ということで歓迎パーティ、祝賀会、自然保護フォーラム、そして広島開催ということで山岳平和祭も含めて行った。概要は前号に書いたとおりである。ここでは総会のみについて述べる。

今回は1団体で10名近く代表団を送ってくれた国もメインテーブルには各団体3名までを基準に参加して頂き、後は傍聴席に座って頂いた。本来はUAAA会員ではないが、AFSC(Asian Federation of Sport Climbing)の代表者やカンボジアの代表者、ネパール観光省の役人、そしてUIAA-MCのLucia Foppoliの方々にもメインテーブルに座って頂いた。

1. 事前処理

活動報告については例年通りUAAA事務局に送っておいた。また、記念誌作成ということで各団体に2ページ限定で過去10年間の活動報告を出して頂き、1冊の本にするつもりであったが、提出していない団体もあり、今回の席での催促になった。



2. 参加国・団体

日本(JMA及びJWAF/日本勤労者山岳連盟)の他、KAC(キルギス山岳会)、CTAA(中華台北山岳協会)及びCTMA(中華台北健行山岳会)、ACM(モンゴルアルパインクラブ)、CMA(中国登山協会)、CHKMCU(中国香港攀山及攀登総会)、KAF(韓国山岳協会)及びCAC(韓国山岳会)、ACP(パキスタン山岳会)、IMF(インド登山財団)、NMA(ネパール山岳協会)の9か国・地域13団体である。IMSCF(イラン山岳・登攀連盟)は来日直前の急用、MCFRK(カザフスタン山岳登攀連盟)は来日直前の事故で参加出来なかった。

3. 議事

3-1. 開催に当たって

(1)ヒマラヤ等で亡くなられた方に対して黙とう

(2)開催国神崎会長の挨拶

アジアと言っても東の端、日本の広島で開催されたことに深く感謝します。参加された多くの団体、UIAAのFrits会長に厚く御礼申し上げます。20周年記念総会ではありますが、これからの20年も大事です。JMAの参加者を紹介します。(参加者については前述)

(3)ゲストであるUIAA会長の挨拶

クライマーの皆さん、ご招待頂き有難う。UAAA20周年おめでとうございます。組織的にもしっかりとしています。フレンドシップ有難う。(短いメッセージであった。)

(4)主催者であるUAAA会長の挨拶

昨夜は楽しめましたか? UAAAはファミリーです。1994年に創立されました。新メンバーを迎えさらに発展させていきましょう。JMA神崎会長、有難う。UIAAのFrits会長有難う。すべてのスタッフのみなさん有難う。

(5)定足数の確認

Frits会長、UIAA-MCのLucia Foppoliにも出席頂いている。定足数に達している。

(6)参加者各自の自己紹介

議長の発言により各自、自己紹介を行った。

(7)本日の議題についての追加があるか

NMAから2016年の開催についても議事に入れてほしい、ということで「次回開催」の項目に追加した。

(8)6月に開催された理事会の議事録に変更があるか

一度香港からメールで送られてきたものに対して一部訂正したものをお見せしたが、特に追加訂正なしとなる。

3-2. 20周年記念関連アイテム

(1)UAAA-Webについて Review

Log-in することでGroup officeの内容を見ることが出来る。IDは各 federation の名前でPassはU A A A 創立月日1104である。各種データを見ることが出来る。

(2)20周年記念誌について

JMAが発言した。先の理事会でも、またメールでも依頼しているように各団体の活動を2ページで纏めてほしい、そうすることによってページを開けば両サイドでいっぺんに活動内容がわかる、というものである。しかし団体によっては4ページ、8ページ等多く書いてきている。2ページにして2週間以内に提出してほしいと提案、すべての団体で了承した。

(3)U A A A の歴史

特にWebに過去の活動の写真、文書を掲載したい。是非送ってほしいとのこと。また、10年前に作成した10周年記念誌の内容紹介をWebで行った。

3-3. 各団体の活動報告

JMAから始まり着席順に活動報告のプレゼンがあった。詳細は省略する。主な内容として、パキスタンではトレッカーから不法に料金を請求している者がおり、政府の目が届いていないケースがある。注意してほしい。ネパールではツアー客が増加するとシェルパやポーターに仕事が回り、さらにその周辺の人たちも仕事にありつける。

3-4. 会計報告

CTMAのHank氏から収入、支出についての説明があった。

3-5. 日中韓・合同研修報告(ビデオ)

今年の9月に谷川岳で行ったレスキュートレーニングの実技の紹介を動画で行った。

3-6. メンバーシップ

(1)モンゴルアルパインクラブ

モンゴルアルパインクラブは前回の理事会で国家保証書を持ってくることが条件になっていたが、今回はスポーツ省の保証書を持参しており、晴れてU A A A 会員となる。

(2)バングラデシュ山岳連盟

これは前回の理事会では承認されており、本総会で正式に会員となる。

(3)ノボシビルスク山岳連盟

キルギスの推薦、今回はV I S A が間に合わなかった。ロシア山岳連盟の翼下ではない。会員は両方に入っている場合がある。来年キルギスの理事会に来てもらい、それからの判断となる。JMA小野寺から、V I S A 申請が必要な国は期限が過ぎてからではなく早めに依頼するように、とリクエストがあった。

(4)カンボジアクライミング連盟

神崎会長から、カンボジアのような経済的に余裕のない国でもU A A A が支援し、今回はオブザーバでもよいが、やがてU A A A の会員として活動できるようにしたい。前者と同様に次回理事会で検討しましょう、となった。

3-7. U A A A 合同遠征

NMAは昨年2回も募集したが、応募はたった1人、また1人は質問のみで、さっぱりであった。観光省からも是非来てくれるように依頼があった。エリアはムスタンで価格も高いし、もっと安くすれば集まるのではないか、2010年のパルドール遠征のときは日本をはじめ沢山の人が来てくれた。何とか実践しましょう。

3-8. U I A A トレーニング・スタンダード

U I A A 登山委員会委員である遭対副委員長の青山氏から、U I A A の資料と自分の資料を交えての紹介があった。これに対してNMAからは2011年から取り入れて行っていること、ガイド協会等も同様のコースを採用しているなどの説明があった。来年4月には関西でU I A A 登山委員会が開催されることになっており、とにかく関心を持って採用方向にしましょう、ということになった。

3-9. 次回開催の会議について

来年の理事会はキルギスのビシュケクで開催予定。日程は5/27～一週間程度とのことであったが、5/29はエベレスト初登頂日であることから延期しようとの事。



最終的には6/9～15日の間になりそうだ。総会は韓国であり、UIAA総会も同時期に開催される。10/3がUIAA総会であり、その前か後ろかのどちらかになるとのこと。2016年の総会はネパールが立候補してプレゼンを行った。(キルギスは帰国のため途中退場)

3-10. その他

(1) U A A A の名誉あるメンバー推薦

過去に会長経験した方を会議に招待して経験を聞いたらどうか、アドバイスマンバーがいれば心強い。人選はプロジェクトチームを作ったらどうか、その人選は李会長に一任となる。

(2) U A A A オフィスを永久的に設置したい

U A A A は韓国 K A F サポート大なのでおひぎ元の K A F 内におくことで合意。

(3) A F S C との協業

A F S C (Asian Federation Sport Climbing) にアジア 17 か国が加盟している。アジア大学選手権なども行っている。先日印西で開催された WC に IFSC の会長

のマルコも来て、いろいろと話し合った。オリンピック種目になれば U A A A でも体制を整えていきたい。

(4) ピオレドール・アジア

U A A A として 1000 ドルのサポートを行った。

(5) 広島宣言

満場一致で採択された。文面は前号に掲載されている。英文は J M A, U A A A の H P に掲載されている。自分の国の言葉に直してアピールしてほしい。ポカラの山岳博物館、寄せ書きと共に展示してほしい。各自、発表の際には資料を持って来て要領よく話をしてほしい。そして今問題になっている点についてもっと議論を深める場にしてほしい。

最後の U I A A の Frits 会長の挨拶は一言だけ、有難うございました。U A A A の李会長の挨拶として、ポカラの博物館にはよい展示コーナーがあります。坂口さん、神崎さん、私が努力しました。ヒマラヤでのナンガでのアクシデント等あったが、このような事故は防ぎたいものである。皆さん有難う。(記 小野寺育)



平成26年度12月(26年12月)
常務理事会・連絡部会報告

日時 平成26年12月11日(木)

○常務理事会 : 17時40分～19時

○連絡部会 : 19時～20時30分

場所 岸記念体育会館103会議室

出席者

○常務理事会 神崎会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京オ、水島、瀧本各常務理事、中島監事

欠席者 國松副会長・青木常務理事(理事13名11名出席)

○連絡部会 相良理事、澤田、石倉各委員長

欠席者: 増山理事、西原・山本・北山・角田各委員長

1. 議事

(1) 平成26年度11月常務理事会議事録の承認について(承認)

(2) 平成26年度第3回理事会議事録の承認について(承認)
(中島監事から議事録を纏めたら先ず、常務理事に確認して頂き、その後議事録を議事録署名人に送ってはどうか、との提案があった。)

(3) 新春懇談会特別表彰の候補者推薦の承認について(以下の表彰候補者が承認された。)

佐々木義宗(秋田)、吉田弘司(宮城)、齋藤長作(群馬)、大曾根弘(神奈川)、関孝治(福井)、中西研一(兵庫)、亀田行宣・西原斗司男・雨宮節(以上3名指導委推)、南砺市・小林幸一郎・野口啓代(以上競技部推薦)

(4) 第4回日本山岳グランプリの承認に

ついて(選考委員会で審議決定した大西保氏を承認)

(5) 第10回日本スポーツグランプリ候補者の推薦について

(2月5日の常務理事会までに候補者の推薦を受け付けることにする)

(6) 2015年日本代表選手の承認について(選手強化委員会で審議決定した以下の代表選手を承認)

・ボルダー女子S代表: 野口啓代、野中生萌

・ボルダー男子A代表: 藤井快、堀創、杉本怜、檜崎智亜

・リード女子S代表: 小林由佳

・リード女子A代表: 野口啓代、大田理裳、尾上彩

・リード男子S代表: 安間佐千

・リード男子A代表: 松島暁人、是永敬一郎、島谷尚季

(7) アジア山岳連盟創立20周年特別表彰の候補者推薦について

坂口三郎、田中文男両氏の推薦を承認。

(8) オリンピック・プロジェクト・チーム(仮称)の新設について

12月8日～9日にモナコで開催されたIOC臨時総会の決議事項を受けてIFSCから本会に要請のあった、スポーツクライミングの夏季五輪競技種目化に向けたプロジェクト・チームの発足を承認。メンバーの選任は、会長に一任。

(9) 報告

ア 会計月次報告

相良理事より資料に基づき11月末までの会計報告がなされた。

イ アジア山岳連盟創立20周年記念事業報告

小野寺常務理事より資料に基づき一連の事業報告がなされた。

ウ 平成27年度事業計画(案)及び予算(案)の作成について

尾形専務理事より1月9日までに提出。予算編成会議は1月21日～22日。予算書の様式、科目マニュアルはデータで送付する旨の説明があった。

エ 賛助会員(団体)の退会について

11月20日付で株式会社米子製作所が退会されたことが報告された。

2. 役員等の派遣について

(1) 山岳団体自然環境連絡会

12月19日(金) 於: 労山事務所

石倉委員長、徳永・松隈副委員長

(2) 全国スポーツ指導者連絡会議

12月12日(金) 於: シダックスホール

瀧本常務理事

(3) 全国「山の日」連絡会議 12月12日(金) 於: 弘済会館 尾形専務理事

(4) 日本ヒマラヤ協会華甲望年会

12月13日(土) 於: 主婦会館プラザ

エフ 神崎会長

(5) 指導常任委員研修会 12月13日(土)～14日(日) 於: 神奈川山岳スポーツセンター 瀧本常務理事ほか

(6) 中国ブロック競技部研修会

12月13日(土)～14日(日) 於: 鳥取

山本委員長、滝内常任委員

(7) 第3回加盟団体連絡会議兼ドーピング防止研修会 12月19日(金)

於: 新大阪丸ビル別館 西原委員長

(8) 第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会 12月23日(木)～24日(金) 於: 加須市民体育館 神崎会長、八木原副会長、尾形専務理事、

- 森下・青木常務理事、西原、山本、北山各委員長
- (9)国内ユース強化合宿 1月4日(日)～7日(水) 於：静岡県浜松市 北山委員長、小日向副委員長、中川事務局員
- (10)国立登山研修所専門調査委員会 1月8日(木) 於：日本スポーツ振興センター本部会議室 尾形専務理事、北村・増山理事
- (11)アマチュアスポーツ新春懇親会 1月12日(水) 於：NHK本館22F 大会議室 神崎会長、尾形専務理事
- (12)平成26年度顧問・参与会 1月17日(土) 於：アルカディア市ヶ谷 神崎会長ほか
- (13)2015年新春懇談会 1月17日(土) 於：アルカディア市ヶ谷 神崎会長ほか
- (14)平成27年度中高年安全登山指導者講習会引継会議 1月18日(日) 於：アルカディア市ヶ谷 神崎会長、尾形専務理事、仙石・瀧本・青木常務理事
- (15)第2回火山防災対策推進ワーキング・グループ 1月19日(月) 於：中央合同庁舎第8号館 神崎会長
- (16)レスキュー講習会(積雪期・東部地区) 1月23日(金)～25日(日) 於：谷川岳・土合山の家 西内常務理事ほか
- (17)関東ブロック競技部研修会 1月24日(土)～25日(日) 於：埼玉県滝内、佐藤常任委員
- (18)I F S C 総会 3月14日(土) 於：スイスBaden 神崎会長、小日向副委員長

3. 後援、協賛等の依頼について

- (1)「第23回比婆山国際スカイラン大会」後援名義使用(広島県山岳連盟主催)(回答済)
- (2)「第15回全日本山岳スキー競技大会兼第35回秋田県山岳スキー競技大会」後援名義使用(秋田県山岳連盟主催)(回答済)

4. 専門委員会動静

11月常務理事会以降
(10月31日～12月10日)

【報告】

- (1)指導委員会 11月10日(月) 出席者13名
- ア 10月常任委員会議事録確認
- イ 常務理事会報告(10/9、10/30)
- ウ 第3回理事会報告(11/9)
- エ 公認スポーツ指導員制度について 日体協のヒヤリング報告
- オ S C 指導員養成講習会報告
- カ 登攀技術研修会について(11/29～30、岡山)
- ・研修会(19名)、上級指導員(6名)、A級主任(4名)、B級主任(1名)、派遣講師(7名)
- キ 安全登山実践講座について
- ・都岳連での開講日程について
- ・受講カードの図案について
- ク 規約・規程集の改訂について
- (2)国際委員会 11月11日(火) 出席者9名

- ア 海外登山懇談会の反省
- ・告知・宣伝、テーマ、運営について
- イ 第53回海外登山技術研究会について
- ・登山隊報告(アラスカ、K7、マンセール峰)
- ・講師依頼について(中村保、池田常道)
- ・特集「アルパインスタイル登攀の装備と食糧」
- (3)競技部委員会 11月15日(土) 出席者15名
- ア クライミング競技ルートセッター 規程の改訂について
- イ 登録選手規程の改訂について
- ウ ブロック別研修会について
- エ 第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会実施要項について
- オ 第70回和歌山国体実施要項について
- カ 第71回岩手国体競技日程及び参加申込み締切日確認について
- キ 第72回愛媛国体競技会、会期調査について
- ク 平成27年度事業計画について
- ・第10回ボルダリング・ジャパンカップについて
- ・2015クライミング日本選手権東京大会について
- ・ボルダリングユース日本選手権鳥取大会(案)について
- ・2015アイスクライミングジャパンカップ大会について
- ケ 11月常務理事会報告について
- コ I F S C クライミングWC 印西

2014 報告について

- サ 第69回長崎国体報告について
- シ 競技・指導合同委員会報告について
- (4)ジュニア・普及委員会 11月27日(火) 出席者3名
- ア 10月常務理事会報告
- イ 中高年安全登山指導者講習会(西部地区)報告
- ウ U A A A 創立20周年記念総会・広島平和祭報告
- エ なすかし雪遊び隊2015について
- オ ジュニア普及情報交換会について
- (5)選手強化委員会 11月27日(火) 出席者9名
- ア 2014年シーズン報告
- イ I F S C イベント会議(スロベニア・クラニ)報告
- ウ 2015年代表選考について
- ・ボルダリング：女子S代表=野口啓代(1位)、野中生萌(5位)、A代表=なし
- 男子S代表=なし、A代表=藤井決(12位)、堀削(13位)、杉本怜(23位)、檜崎智聖(26位)
- ・リード：女子S代表=小林由佳(9位)、A代表=野口啓代(10位)、大田理姿(11位)、尾上彩(I F S C、世界ユースジュニア優勝者)
- 男子S代表=安間佐千(7位)、A代表=松島暁人(11位)、是永敬一郎、島谷尚季
- エ 国内ユース合宿について
- ・1/4(日)～7日(木)、静岡県浜松市 スクエアクライミングセンター/浜松

寄贈図書

寄贈本	山と溪谷社	「日本の山 究極の絶景ガイド」西田省三 写真・文
	山と溪谷社	「厳選 雪山登山ルート」西田省三 著
雑誌	山と溪谷社	「ROCK&SNOW」066
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.957 2015.1
	ネイチャーエンタープライズ	「岳人」No.811 2015.1
	Corean Alpine Club	「山」Vol.239 2014 11-12
	モンベル	「OUTWARD」No.66
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第570号
	横浜山岳会	「山」990 2014/12
	(公財)東京都スポーツ文化財団	「スマイルスポーツ」Vol.60
	長野県山岳総合センター	「所報」第68号 2014
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」2014 Vol.267
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.440
	(公財)全日本ボウリング協会	「J B C news」第517号
	一等三角点研究会	「聳嶺」第7号
	全国高等学校体育連盟	「全国高体連ジャーナル」2014 Vol28
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.215
	深谷山岳会	「稜線」第8号
会報	高校生新聞社	「高校生新聞」第222号
	(公財)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.302
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・フェアプレイング」2104年12月8日号
	CLUB ALPINO ITALIAIO	「Montagne360」December2014
	中国登山協会	「山野 中国戶外」2014 12
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.479 2015 1
	日本山岳遺産基金	「日本山岳遺産基金」第8号
	NPO 富士山測候所を活用する会	「芙蓉の新風」Vol.9
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第418号
	やまびこ山想会	「やまびこ」第157号
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.192 2014December
	(公社)日本山岳会	「山」No.835
	東京野歩路会	「山嶺」No.1018
	日本山岳文化学会	「山岳文化」2014年 15号
	日本ヒマラヤ協会	「ヒマラヤ」No.471
	(公財)日本ゲートボール連合	「ゲートボールNavi」2014年号

JAM、現在参加者15名
 オ 2015年競技会・委員会予定について
 (6)指導委員会
 12月1日(月) 出席者7名
 ア 11月常任委員会議事録確認
 イ 登攀技術研修会(岡山)報告
 ・登攀研修会(22名)、上級指導員(7名)、A級主任(4名)、講師(7名)、スタッフ(3名)
 ウ 安全登山実践講座報告
 ・都岳連にて7名で実施中
 エ 指導・競技合同会議報告
 ・11/13、都岳連事務所で開催。競技2名、指導7名参加
 オ 平成27年度指導者養成講習会について
 ・神戸：主任検定員及び上級指導員を実施予定
 ・東京・昭島：主任検定員及び上級指導員を実施予定
 カ AC指導者とSC指導者の分離について
 ・競技部は賛成の意向
 キ 韓国の冬期研修会案内について
 ク 平成27年度公認スポーツ指導者表彰について
 ・亀田行宣(石川)、西原斗司男(兵庫)、雨宮節(沖縄)の3氏を日山協表彰に推薦
 ケ 日体協データベースでのACとSCの分離について
 ・12月常務理事会に諮り決定次第、各岳連へ通知する
 コ 平成27年度登攀技術研修会について
 サ 平成27年度指導者養成講習会アンケートについて
 シ 常任委員の補強について
 ・候補者：木下佳哉子
 ス 指導常任委員研修会について
 ・12/13～14、神奈川県山岳スポーツセンター
 セ 指導・遭対合同研修会について
 ・2015、7/11～12、静岡
 ソ 全国公認スポーツ指導者連絡会議分科会出席について
 ・12/12(金)、シダックスホール、瀧本委員長出席
 タ 指導関係図書類の在庫確認について
 (7)国際委員会
 12月9日(火) 出席者13名
 ア ロシア女性クライミング・フェスティバル下見来日件
 イ 第53回海外登山技術研究会について

・3/7～8、国立オリンピック記念青少年総合センター
 ウ BMC International Summer Climbing Meet 2015の派遣について
 ・2015年5月10日～17日、ノース・ウエールズ
 エ 平成27年度国際委員総会・第34回海外登山遭難対策研究会について

5. その他の重要事項

(10月31日～12月10日)

【報告】

- (1)平成26年度中高年安全登山指導者講習会(西部地区)11月1日(土)～3日(祝) 於：岡山県蒜山高原 神崎会長、仙石常務理事
- (2)山岳団体自然環境連絡会
11月6日(木) 於：労山事務所 石倉委員長、徳永副委員長
- (3)海外登山懇談会 11月6日(木) 於：国立オリンピック記念青少年総合センター 八木原副会長、澤田委員長ほか
- (4)UIAA登山委員会 11月7日(金)～8日(土) 於：トルコ 青山副委員長
- (5)第5回自然保護指導員研修会
11月8日(土) 於：国立オリンピック記念青少年総合センター 石倉委員長ほか
- (6)平成26年度第3回理事会
11月9日(日) 於：岸記念体育会館 神崎会長ほか役員25名出席
- (7)加須市市長表敬 11月13日(木) 於：加須市役所 森下・青木常務理事
- (8)平成27年度スポーツ振興事業助成に関する説明会 11月14日(金) 於：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター 中川事務局員
- (9)神奈川県山岳連盟創立60周年記念祝賀会 11月15日(土) 於：ワークピア横浜 神崎会長
- (10)IFSCイベント会議
11月15日(土) 於：スロベニア・Kranj 小日向副委員長
- (11)山岳団体自然環境連絡会
11月17日(日) 於：労山事務所 石倉委員長、徳永・松隈副委員長
- (12)第57回オールスポーツマン・ゴルフ大会 11月17日(日) 於：久爾カントリークラブ 坂口顧問他4名(団体戦20位)
- (13)第2回火山情報の提供に関する検討会 11月19日(火) 於：気象庁 尾形専務理事
- (14)NESチャンピオンシップ2014ファイ

- ナルパーティ 11月22日(土) 於：神奈川県立藤野芸術の家 佐藤副会長
 (15)UAA創立20周年記念総会・広島山岳平和祭 11月22日(土)～26日(火) 於：広島市 神崎会長ほか
 (16)平成26年度JOCコーチ会議
11月28日(金) 於：味の素ナショナルトレーニングセンター 安井博志、佐藤豊、中貝次郎、中川事務局員
 (17)登攀技術研修会
11月29日(土)～30日(日) 於：岡山県瀧本常務理事ほか
 (18)東北ブロック競技部研修会
11月29日(土)～30日(日) 於：岩手県西原委員長
 (19)火山防災対策推進ワーキング・グループ 12月1日(日) 於：中央合同庁舎第8号館 神崎会長
 (20)日本ワールドゲームズ協会臨時総会
12月4日(木) 於：赤坂T-Front 尾形専務理事
 (21)日本勤労者山岳連盟望年会
12月5日(金) 於：労山事務所 八木原副会長、尾形専務理事、小野寺常務理事
 (22)(公社)日本ネパール協会創立50周年記念祝賀会 12月6日(土) 於：新宿三井クラブ 尾形専務理事
 (23)近畿地区山岳連盟総合会議
12月6日(土)～7日(日) 於：比良山岳センター 八木原副会長
 (24)四国ブロック競技部研修会 12月6日(土)～7日(日) 於：香川・高松テレサ 西原委員長、高橋常任委員
 (25)スポーツ団体のガバナンスに関する意見交換会 12月8日(日) 於：大手町サンケイプラザ4Fホール 尾形専務理事

編集後記

あけましておめでとうございます。今年も定期発行に努めますので本年も宜しくお願致します。近頃地球の自転が変わったかのように時の経つのが早い。何事も賞味期限が過ぎないうちに英断したいものだと思う

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第550号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 平成27年1月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和四峠「時の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格1冊

680円

(税込734円)

年間購読12冊

7,480円

(税込8,078円)

12冊 8,160円

のところ

▶680円おトク!

年間購読
特典



岳人オリジナル
マグカップを
プレゼント!

「岳人」2月号

【特集】山上駅から始まる冬山

【好評連載】夢枕 獺「神々の山嶺」創作ノート
／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」
岳人プロフィール／秘境探訪／新名山行 ほか

2月号
1/15発売

★モンベルのウェブ
サイト、全国のモン
ベルストアや書店
にて発売中!

年間購読
お申し込み方法

●ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp>

●お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)
☎ 0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

●全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp>

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



安心を売る仕事。

嵐の日でも 晴れの日も。
つらいときも うれしいときも。
わたしはあなたを見守っています。

わたしがあなたに
売っているのは「安心」です。

安心できれば 挑戦できます。
だからあなたは
夢に向かって
進みつづけてください。

どんなことが起きても
わたしはあなたの味方です。

MS 私は
agency 三井住友海上の
代理店です。

www.ms-ins.com

山岳保険の加入は 登山者のマナーです。

あなたの山岳保険は、大丈夫ですか？

■平成25年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成26年6月12日)

発生件数 **2,172** 件 (前年対比 184件増)

遭難者数 **2,713** 人 (前年対比 248人増)

死者・行方不明者 **320** 人 (前年対比 36人増)

詳しくは → <http://www.sangakukyousai.com>

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
U R L : <http://sangakukyousai.com>